琉球八重山群島の蝶 I

長 嶺 邦 雄[1)]

On the Butterflies from the Yaeyama Group of the Ryukyu I

By Kunio Nagamine

筆者は1961年9月3日～9月24日の21日間，琉球八重山群島の石垣，西表両島の昆虫，主に蝶類採集を行った．その間，台風20号，18号と二度も台風に見舞われ，また2人でテントをかついでの旅行とあって十分な採集も出来なかったが60種を目撃し，47種を採集することが出来た．また幼生期に関しても若干の新知見を得たのでここに報告したい．なお私の採集してない種でも同行の長嶺将昭氏の採集した種はこの報文に加えた．その際は氏の姓名の頭文字(M. N.)を文尾に附した．貴重な標本を快く貸与下された同氏に厚く御礼申し上げます．又この報文の発表をすすめて下さった九州大学白水隆博士に深謝の意を表します．

1 西表島における新記録種について

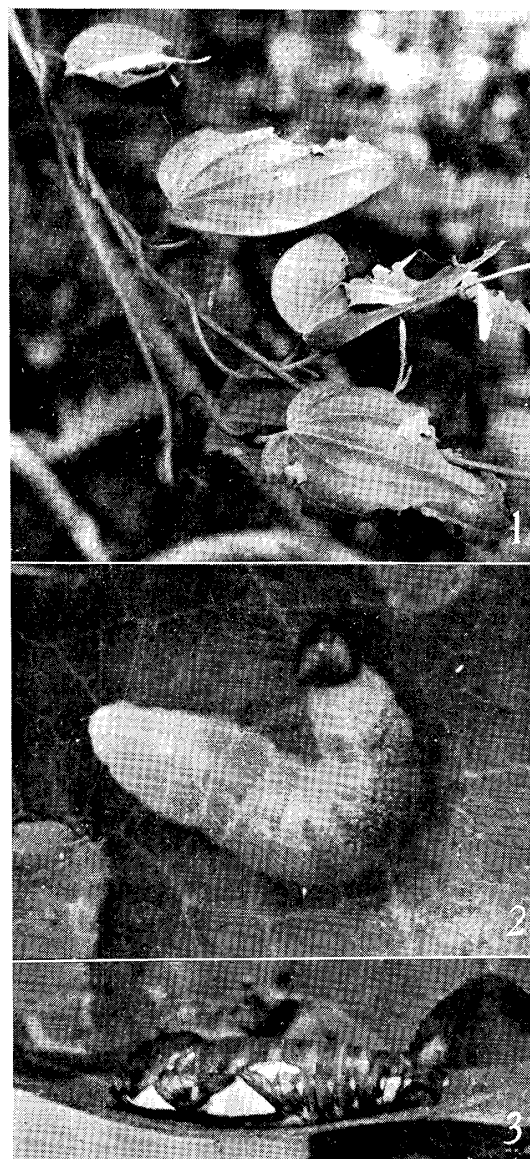
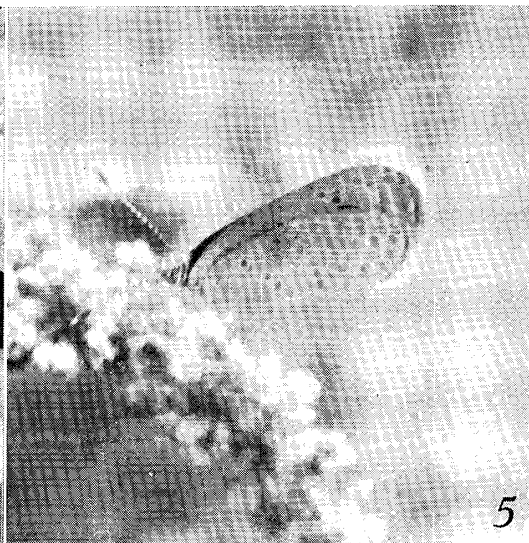
この地の蝶類の採集報告は最近なされてないようであるが，高良鉄夫博士の Provisional list of butterflies in the Ryukyu Islands (1956) にまとめられているので，この目録に記録のないものを未記録とした．

1. *Hasora chromus inermis* Elwes et Edwards, 1897 オキナワビロウドセセリ
   1♂, Hoshidate, 14 IX 1961; 2♀♀, Uehara, 16 IX 1961
2. *Badamia exclamationis* (Fabricius, 1775) タイワンアオバセセリ
   1♀, Hoshidate, 15 IX 1961, (M. N.)
3. *Telicota colon stinga* Evans, 1949 ネッタイアカセセリ
   1♂, Hoshidate, 17 IX 1961,
4. *Parnara naso bada* (Moore, 1878) ヒメイチモンジセセリ（タイワンハナセセリ）
   1 ex., Hoshidate, 15 IX 1961, 1 ex., Hoshidate, 16 IX 1961.
5. *Catopsilia pomona* (Fabricius, 1775) ギンモンウスキチョウ
   1♂, Inaba, 17 IX 1961
6. *Deudorix eryx okinawana* (Matsumura, 1919) イワカワシジミ
   5 eggs, Inaba, 17 IX 1961, 成虫は未だ得てないがクチナシの実から卵5個を得ている．
7. *Euchrysops cnejus* Fabricius, 1798 オジロシジミ
   1♀, Shirahama, 18 IX 1961
8. *Pithecops* sp.
   1 ex., Hinai-taki, 16 IX 1961; 3 exs., 17 IX 1961
9. *Jamides bochus ishigakianus* Shirōzu, 1953 ルリウラナミシジミ
   1♂, Hoshidate, 15 IX 1961; 3♂♂, 3♀♀, Inaba, 17 IX 1961;
   6♂♂, 9♀♀, Shirahama, 18 IX 1961; 1♂, Sonae, 18 IX 1961
10. *Ypthima yaeyamana* Nire, 1620 ヤエヤマウラナミジャノメ
   2♂♂, 1♀, Hoshidate, 15 IX 1961; 2♂♂, Hoshidate, 17 IX 1961; 1♀, Shirahama, 18 IX 1961
11. *Celastrina puspa ishigakiana* (Matsumura, 1929) タイワンルリシジミ
   1♂, Iriomote Island, III 1961, (Nishihira leg.)
   この種は今回の旅行で得たものではないが，今年の3月，琉球大学文理学部生物学科四年次西平守孝氏の採集品にあったもので，未記録と思われるから，この機会に発表する．

1) 沖縄那覇市松尾75

2　両島に於ける食草の知見

今回の旅行で下記の種の食草の一部を観察することができた．しかし植物採集具を持ってなくて食草の標本を作ることができず，下記のように植物名の判然としないのが多く，発表するのも気がひけたが，予報の形で発表しておきたい．

1. *Hasora chromus inermis* Elwes et Edwards, 1897 オキナワビロウドセセリ
   Pongamia pinnata Merr. クロヨナ（石垣島，西表島）
2. *Tagiades trebellius martinus* Plötz, 1884 コウトウシロシタセセリ
   (?) *Dioscorea bulbifera* L.（西表島）
   他に石垣島で *Dioscorea* sp. (Fig. 1) より卵，幼虫，蛹殻を多数得た．
3. *Notocrypta curvifascia curvifascia* Felder, 1862 クロセセリ
   Alpinia intermedia Gagnep. アオノクマタケラン（石垣島）
4. *Udaspes folus* (Cramer, 1775) オオシロモンセセリ
   Alpinia speciosa K. Schum. ゲットウ（石垣島）
5. *Borbo cinnara* (Wallacé, 1886) ユウレイセセリ
   イネ科植物の雑草に産卵
6. *Graphium sarpedon morium* (Fruhstorfer, 1908) アオスジアゲハ
   Cinnamomum japonicum Sieb. ヤブニッケイ（石垣島，西表島）
7. *Papilio xuthus* Linné, 1767 アゲハ
   (?) *Zanthoxylum Beecheyanum* K. Koch ヒレザンショウ（石垣島）
8. *Papilio polytes polycles* Fruhstorfer, シロオビアゲハ
   Toddalia asiatica Lam. サルカケミカン（石垣島）
9. *Catopsilia pyranthe* (Linné, 1758) ウラナミシロチョウ
   Cassia occidentalis L. ハブソウ（石垣島）
10. *Catopsilia crocale* (Cramer, 1775) ムモンウスキチョウ
    Cassia siamea Lam. タガヤサン（石垣島）
11. *Eurema hecabe hobsoni* (Butler, 1880) キチョウ
    Cassia occidentalis L. ハブソウ，*Cassia surattensis* Burm. f. モクセンナ，*Acacia Farnesiana* Willd. キンコウカン（ギンネム）（石垣島）
12. *Meisba malaya iwasakii* Matsumura, 1919 タイワンクロボシシジミ
    Mallotus japonicus Muell.-Arg. アカメガシワ（石垣島，西表島）他に Fig. 4 にみられる植物を食す．
13. *Zizeeria maha okinawana* (Matsumura, 1929) ヤマトシジミ
    Oxalis corniculata L. カタバミ（石垣島）

Tagiades trebellius martinus Plötz
コウトウシロシタセセリ
Fig. 1 巣，Fig. 2 幼虫，Fig. 3 蛹

14. *Zizeeria knysna karsandra* (Moore, 1865) ハマヤマトシジミ

  Amaranthus spinosus L. ハリビユ (石垣島) Figs. 5–6.

15. *Euchrysops cnejus* (Fabricius, 1798) オジロシジミ

  Phaseolus angularis W. F. Wight アヅキ (石垣島)

  Phaseolus sp. ヤブツルアヅキの類 (石垣島)

  Crotalaria sp. タヌキマメの類 (石垣島)

16. *Lampides boeticus* (Linné, 1767) ウラナミシジミ

  same as fore-going species (石垣島)

17. *Jamides bochus ishigakianus* Shirôzu, 1953 ルリウラナミシジミ

  (?) *Pueraria montana* Merr. タイワンクズ (石垣島, 西表島) Figs. 7–8–9.

  Pongamia pinnata Merr. クロヨナ (石垣島, 西表島)

?印の植物：東平地氏によるとタイワンクズではなく *Oromocarpum cochininensis* (ハマセンナ) という.

18. *Nacaduba kurava septentrionalis* Shirôzu, 1953 アマミウラナミシジミ

  Ardisia Sieboldii Mig. モクタチバナ (石垣島)

19. *Deudorix eryx okinawana* (Matsumura, 1919) イワカワシジミ

  Gardenia jasminodes Ellis f. *grandiflora* Makino クチナシ (西表島)

20. *Limnas chrysippus* (Linné, 1758) カバマダラ

  Asclepias curassavica L. トウワタ (石垣島, 西表島)

21. *Salatura genutia* (Cramer, 1779) スジグロカバマダラ

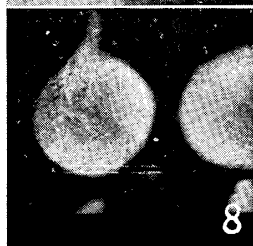
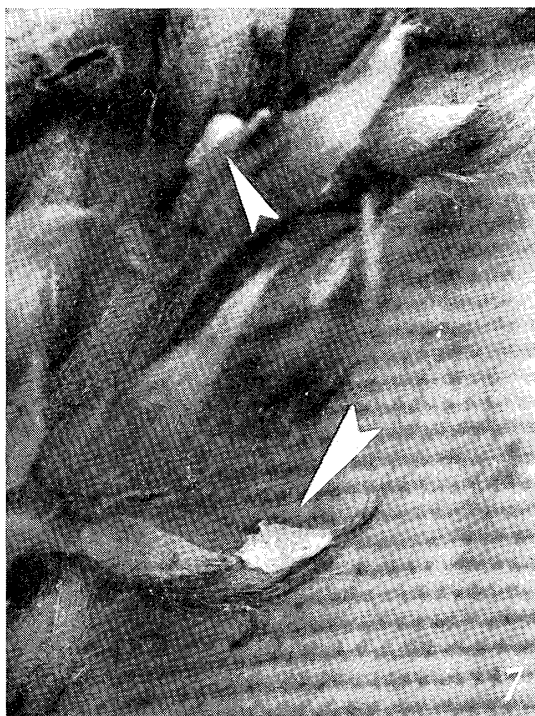
22. *Radena silmiis silmiis* (Linné, 1758) リユウキユウアサギマダラ

  (?) *Tylophora Tanakae* Maxin. ツルモウリンカ (石垣島, 西表島)

Fig. 4 *Meisba malaya iwasakii* Matsumura タイワンクロボシシジミの産卵

Fig. 5 *Zizeeria knysna karsandra* Moore ハマヤマトシジミの産卵

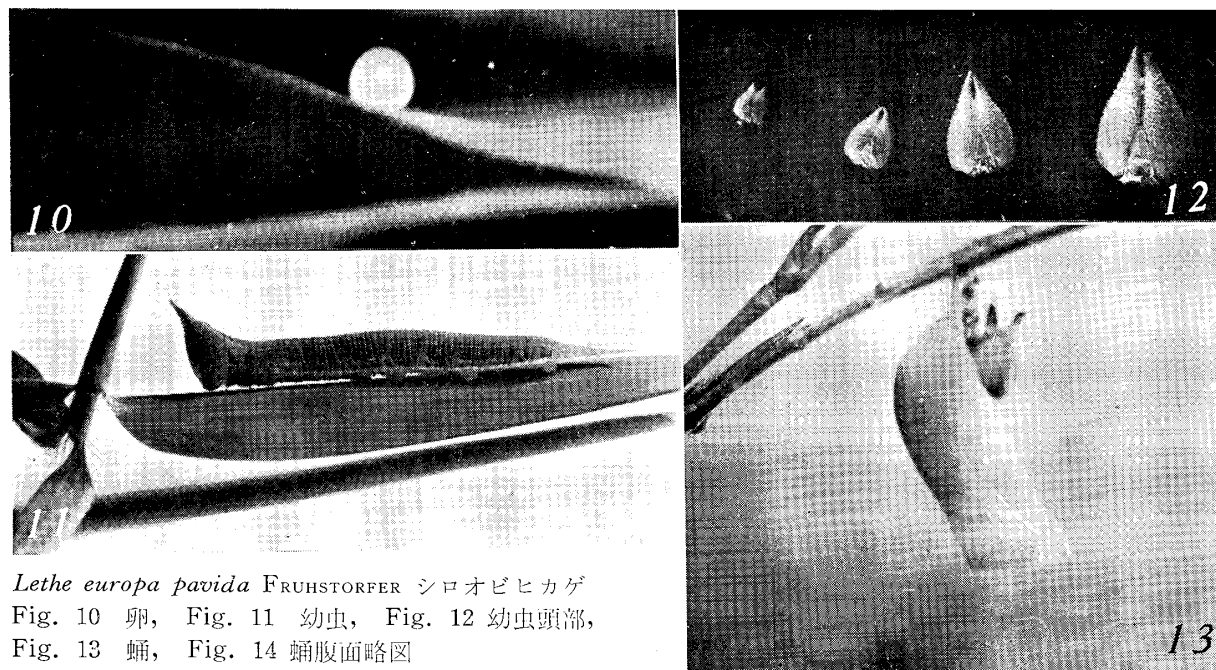
Fig. 6 同幼虫

23. *Idea leuconoe riukiuensis* (HOLLAND, 1893) オオゴマダラ
 Cynanchum formosanum HEMSL. ホウライイケマ (石垣島)
24. *Lethe europa pavida* FRUHSTORFER, 1908 シロオビヒカゲ
 Bambusa sp. タケの類 (西表島)
25. *Precis almana* (LINNÉ, 1758) タテハモドキ
 Lippia nodiflora L. C. RICHARD イワダレソウ (石垣島, 西表島)

Jamides bochus ishigakianus SHIRŌZU
ルリウラナミシジミ
Fig. 7 産卵位置
Fig. 8 卵
Fig. 9 幼虫

26. *Vanessa indica indica* (HERBST, 1794) アカタテハ
 Boehmeria nivea GAUD カラムシ (石垣島)
27. *Cyrestis thyodamas ishigakiana* MATSUMURA, 1929 イシガケチョウ
 Ficus septica BURM. f. オオバイヌビワ (石垣島)

3 ルリウラナミシジミについて

成虫は食草附近に多数見られ，一般に食草が高所に花をもつため成虫も高所を飛舞する．卵は前記食草の蕾と蕾の間に数個〜十数個塊状に産附される．それが特異な卵塊で写真に見られるように白色アブク様物質で包まれ，それは必ず蕾間にはさまれて位置する (Fig. 7 の上の矢印は産附された卵，下の矢印は上部蕾を取り除いて上方から見たものである)．卵の配列は斜〜横倒しに順次ならべて産附されていることから卵はアブク状物質とともに蕾間に注ぎこむように産附されるものと思われる．これは産卵行動を目撃したものではないのではたしてこの種の卵かどうか疑問であるが，私は次の点からこの種の卵と考える．成虫の多数いる所の食草から卵は，この卵とオキナワビロウドセセリの卵数個しか発見出来なかったこと，この卵の附近からシジミ類の幼虫が多数とれ，その他のシジミ類の成虫が近くに飛翔しないこと，♀成虫6個体の腹部解剖の結果，その内一個体より十数個の卵を得た．しかしこれらはすべて未熟卵で表面の模様がほとんどあらわれていず，比較するには適しなったが，わずかに表われた模様から推してこの卵と似ていることなど．卵は白色小型円盤状をなし，上面はやや円みをおびているが平坦に近く，不規則な網目模様を有し，その目は多角形で四〜五角形に近いのが主である．精孔部へ近づくにつれ目は小さく粗になり凹点のようになる．これは全体を通じていえることで網目模様は凹点の様な感じで，突起はほとんど見られない位短い．

上面中央部の精孔部はへこみ，精孔部内にも網目模様があるが，それは他部分における網目より細い．幼虫は常に蕾内にもぐりこんでいて発見は容易でない．蕾内の花弁，子房，他花内部器官を食するようである．幼虫の形態については紙面の都合上，次機会にゆずりたい．飼育は食草が腐れて失敗し蛹を得ることが出来なかった．

Lethe europa pavida FRUHSTORFER シロオビヒカゲ
Fig. 10 卵, Fig. 11 幼虫, Fig. 12 幼虫頭部,
Fig. 13 蛹, Fig. 14 蛹腹面略図

4 シロオビヒカゲについて

西表島星立で午前中の観察では，産卵が正午近くに行われ，タケ類の高さ50〜200cm位のところの葉裏に一コずつ産卵された．しかし，産卵場所が悪く採集困難で1コの卵しか採集することが出来なかった．その卵を飼育した結果，次のようにして成虫になった．9月15日産卵，9月20日孵化，1眠起は不注意により見落し，9月26日2眠起，10月1日3眠起，10月6日4眠起，10月24日蛹化，11月2日羽化，小型の♂個体であった．その幼生については筆者の不注意でくわしく記載することが出来ないが，終令幼虫及び蛹について簡単に記したい．各令の頭の比較は Fig. 12 を参考にされたい．1令幼虫の頭は筆者の不注意のため見ることが出来なかった．

終令幼虫：静止時の体長は38mm，体幅4.5mm（第4腹節），胴部は3胸節・10腹節が明瞭で第3〜6腹節附近で最も太く，前後に細まる．地色は淡青緑色，背線は地色よりやや濃色で黄色の細線で縁取られている．亜背線は頭部の二角状突起よりそれぞれのびる黄色線で背線の縁と同色，気門は暗橙色，気門下線は鮮明な黄白色で，ややひだ状に隆起し，黄白色線は腹部第1節〜尾部まで縦走する．胸部は横じわでおおわれ，腹部にも横じわがみられるが第1節は全面であるが，2・3……節と尾部にいくと少なくなる．頭部は高さ（突起を含めた）5.1mm，幅3.5mm，前後にやや扁平で，前面から見ると上方にせばまり背の高いクリの実状になり，中縫線の深い陥入により左右の頭頂はするどく突出する．しかしこの突起は強く離れることなく，くっつきあって，あたかも頭頂がせばまり1つの突起を出しているように見える．写真では離れているがそれは蛹化の際に割れたからである．

蛹：体長は16mm，体高5.8mm（中胸部），体幅5.9mm（第3腹節），白緑色で頭部には前方に向って1対の鈍突起があり，その外側約1mm位の所にそれよりもっと鈍い突起を有し，それらの頂部は黄金色点が存す．肩部〜前翅後縁の稜の側面部は黄金色条がのび，中胸の頂部に1つ，第1〜7腹節の亜背線上に黄金斑点が1対ずつ有る（第2〜4腹節のが明瞭で大きい），概形は Fig. 13 を参考にされたい．